ATAC News
アタック
2008.5 臨時特集号
文部科学省・経済産業省共管　財団法人　大阪科学技術センター
季刊
ATAC 事務局
〒550-0004
大阪市西区靭本町 1－8－4
(財)大阪科学技術センター
技術・情報振興部
06－6443－5323
06－6443－5319
発行人：梶原　孝生

成功裏に終わった OB 活用全国会議

日陰に入るとやや寒くなった昨年の11月29日、30日、晴れやかに青空が広がる中、大阪の（財）大阪科学技術センターに於いて全国初の企業 OB 活用全国会議が開催されました。

北は埼玉県から南は山口県までの、四国を含めてほぼ全国から 25 団体、合計 63 名が二日間にわたって熱心に討議を重ね、盛況裏に終わることが出来ました。

【開催に到る背景】

団塊の世代が大量に定年退職を迎えるということで、２００７年問題として新聞紙上でも度々取り上げられましたが、こう言った大企業の定年退職者が、過去に培った知識や経験を生かして中堅・中小企業の支援をする、いわゆる企業 OB 活用の組織が、各地に生まれています。しかし、必ずしもその全てが円滑な運営をしているようには見受けられず、課題解決への何らかの討議が必要と考えられていました。 （次頁へ続く）

参加者からのひと言

基本に戻っての組織づくり

（有）イーテック 代表取締役運営委員長　大川　治 氏

地球温暖化の急激な進行、日本における高齢者の増加、団塊の世代の大量退職、経営者と若年層との労働意識の大幅な乖離などなどによる企業の経営環境、特に素晴らしい技術をもちながらその展開発展にもう一つ適当な人材が不在なことによる中小企業の低迷傾向など、社会の歪がつとに拡大しているように見える。

このような時に、全国規模でのＯＢ活用に関してのサミット、第１回ＯＢ活用全国会議が大阪で開催されたことは、エポックメーキングなことであった。

後期高齢者制度の導入など、いろいろと社会的施策も導入されてくるが、まだまだ社会にとって有益な活動が可能なＯＢも沢山いらっしゃる。摩擦的失業と言おうか、ビジネス上のアンマッチングが災いして、その活用が充分でないことは事実である。

第１回ＯＢ活用全国会議に参加してみて、ＡＴＡＣの活動の凄さに眼を見開かせられた思いがした。流石、ＯＢ活用の先駆者ＡＴＡＣ、その面目躍如たるものがある。

なかなか真似できることではないが、これを機にもう一度基本に戻って、組織を活性化させようと考えた方々も多かったのではなかろうか？

大阪科学技術センターでは、実に今から17年前にこの問題意識を持ち、これらの定年退職者を結集して中堅・中小企業の支援をする集団“高度技術者集団 Advanced Technologist Activation Center 略して ATAC”を組織し、発足以来、この18年間で支援企業数…約160社、支援件数…約600件の実績を積み重ねてきました。

ATACの活動も年々拡がりを見せ、各地に兄弟組織として奈良県には「ATAC Mate 奈良」、和歌山には「ATAC Mate 和歌山」、岡山には「ATAC Mate 岡山」、そして広島には「ATAC ひろしま」が誕生し、これらの組織は毎年一回一堂に会してそれぞれの運営の苦労や、コンサルティングの課題などを話し合ってきました。(我々は、これを略称としてATACサミットと呼んでいます)。

話し合っていると、それぞれが課題を抱えていて、話し合いがその解決策を与えることに気がつき、相互の連携やお互いに抱える課題を話し合うことの重要さを実感致しました。

全国に展開している企業OB活用の組織も、前述したように、それぞれの課題も多く、お互いの連携と相互の話し合いの重要性をひしひしと感じ、ATACサミットに倣って是非とも一同に会して話し合う“全国会議”の開催が必要と考えた次第です。

【会議当日の模様】

全国初のOB活用全国会議は、平成19年11月29日(木)、30日(金)に大阪市西区の緑深い靭公園に隣接した(財)大阪科学技術センターにて行なわれました。前述したように、ほぼ全国から25団体、合計63名が参加しました。

冒頭に梶原孝生ATAC運営委員長の開催の挨拶のあと、木内創近畿経済産業局地域経済部次長の祝辞、これに続いて基調講演は、ATAC副会長の荒川守正氏が、ATAC誕生のいきさつやATAC Mate 5グループが更に全国展開してゆく大きな夢を熱く語られました。

二つの分科会に分かれての討議は、それぞれ「組織の運営」と「クライアント確保」を討議の課題にあげ、「組織の運営」は(有)イーテック代表取締役の大川治氏が座長を、「クライアント確保」はNPO法人山口県アクティブシニア協会事務局長の松原邦夫氏が座長を勤められ、熱心な討議が展開されました。このあと再び全員が一同に会し、分科会の総括と、今後の展開を討議し、有意義な会議の幕を閉じました。

このあとの懇親会では、お互いに名刺交換をし、和気藹々に打ち解けて、相互の連携を強めて行くため、この会議の持続をお互いに約束しあいました。

翌日は、中小企業が結集する東大阪の代表的

参加者からのひと言

年齢、そんなの関係ねえ！

ATAC・MATE奈良　大塚　徹 氏

ATAC・MATE奈良に参加してまだ一年生だった私にとって、この会議に参加して圧倒されたのはシニアの皆さんのパワーである。そのパワーの秘密は開催日当時に流行っていた流行語「そんなの関係ねえ！」だと思った。しかも、二つの「関係ねえ」があるように思う。

ひとつ目は「年齢など関係ねえ!」。ＡＴＡＣをはじめ企業ＯＢの皆さんは当たり前のことだが、大半が60代、70代の方々である。しかし、皆さん健康で、何らかの形で社会と関わり続け、世の中のために役立ちたいという意欲に充ち満ちておられる。その肉体的・精神的な若さに、ただただ脱帽するばかり。

もうひとつは「組織など関係ねえ!」。サラリーマン時代は管理職まで務められた方が多いとは言え、やはり、社長や役員の顔色を見ながら仕事をされていたはず。それが、何らかのグループに属してはいても、一応“個人営業主”として独立し、永年培った技術やノウハウを活かして仕事を続けている。気力が充実して当然である。このパワーを活用しないのは日本社会にとって大変な損失であるとつくづく感じさせられた。そして、多くのことを学ばせてもらった。ありがとうございました。

なものづくり元気企業の株式会社竹中製作所を見学し、特殊ネジの製作現場や検査工程をみて感銘をうけ、正午に大阪駅前で、来年の再会を約し、別れを惜しみながら解散しました。

【分科会の討議の内容】

分科会では「組織の運営」と「クライアント確保」について討議を重ねました。

① 第一分科会からは、

・この「サミット」でビジネスマッチングが出来る。毎年開きたい。
・メンバーの採用に関しては切実に感じていない。
　ただし、メンバーの高齢化の問題はある。
・運営費に 10 ～ 25％充当しており、営業活動費は活動に負っている。

② 第二分科会からは、

● 参加団体：民間…13　行政…1
　　学会など…2
● 活動期間：2 年以内…4　2 ～ 4 年…5
　　5 年以上…5
● 年間収入（団体）：500 万円以下…5
　　500 万円～ 1 千万円…3
　　1 千万円以上…4
● 業務内容：人材紹介…2
　　コンサルティング…10

・3 団体の事例紹介。今後ＯＢ人材確保が問題ではないか。
・中部産業連盟のような組織が各地にあればよいが。
・クライアントの確保で出された多くの意見を紹介。
・今回のような会議をまた開催して欲しい。

（次頁へ続く）

参加者からのひと言

ATAC メンバーリーダーシップ力

NPO 法人 ノウハウ会　理事長　石毛　浩 氏

第 1 回会議の目的は「ＯＢ活用」即ち、活動されている企業ＯＢの方々に参加願い、ＯＢの方々の経験を更に活かして頂く活動をふまえて、「組織の運営」ならびに「クライアントの確保」を如何したらよいかを議したことにあったと理解しています。

その会議が何故「全国会議」であったのかが大変重要なところでしょうが、然しそれが故に展開の難しさが内蔵されているのではと、感じています。

事を簡潔に整理すると、此の活動は究極のところ「ＯＢによる企業支援」が目的であって、そのため関係する方々が全国的に集って何をするか、という事であろうかと思っています。

とすると、当面はその目的のための幅広い「情報交換の場」の提供であり、そしてその場を借りての「緩やかな連携の確立」にあるのではと思います。

何れにしてもこのような活動は、継続してこそ意義がありそのためには、ATAC さんの強力なリーダーシップなしには不可能と感じています。

今後の具体的な展開を期待しています。

③ **質疑応答では、**

・会議ではアクションに結びつくテーマを取り上げて欲しい。例えば登録人材の基準、クライアント確保に有効なアクションと有効でないアクションなど。
・クライアント確保ではすべての方法を試みることが大事だ。マスコミ活用、機関紙発行、社長との懇話会、金融機関とのコンタクトなど。
・技術開発や工場管理など、人材を欲しがっている企業は多い。そういうところとコンタクトすべきだ。
・今後の参加団体の連携のために、ネットワーク作りのためのデータシートの整備をお願いしたい。

その結果は、再び全員が集まった全体会議で各分科会の座長からそれぞれの分科会での議論の内容の紹介がありました。

編集後記

平成18年の秋、ATAC15周年の記念講演会でATAC荒川副会長が「来年、OB活用の全国会議を開く」と宣言され、それからが大変でした。まず、19年初頭から、全国のOBを活用している組織の調査を、インターネットや色々な資料から開始しました。

これらの資料をもとに、ATACのメンバーが手分けして各地に飛び、色々な機関の代表者の方々と直接面談し、全国会議へのご理解を求めました。どこであれ、即刻、実際に現地に飛ぶということはATAC行動指針の真髄です。

このあと全国の機関にアンケート調査を依頼し、その結果を踏まえての開催となりました。結果として、北海道からのご出席が見合わされたのが残念でしたが、関東、名古屋、三重、中国、四国と多彩な顔ぶれで、次回はさらにこの輪を拡げたいと願っております。全国のみなさん、本年もまた更なるご協力を宜しくお願い致します。

当日の開催を振り返ると、やはり各組織がそれぞれ課題を抱えて、色々と苦心しておられる姿が見えました。やはりこうしてお互いに話し合い、相互の情報交換と連携を強めることの意義を深く感じた次第です。

（梶原記）

参加者からの ひと言

ＯＢ人材の活用が地域経済を活性化

ＮＰＯ法人 山口県アクティブシニア協会　事務局長　松原　邦夫 氏

ＮＰＯ法人山口県アクティブシニア協会は、企業ＯＢなどシニアで構成する団体で、中小企業の経営支援や人材育成などを十数年前から行ってきました。そういった中、団塊世代の大量退職で元気なシニアが急増する一方、人材確保に苦労し経営課題の解決もままならない中小企業を目の当たりにするにつけ、これを何とかしたいと、シニア人材と地場中小企業の橋渡しを行う組織『周南シニア人材マッチングバンク』を立ち上げ、人材紹介、コンサルティング、業務受託などの事業を行ってきました。

しかし何分にも経験の浅い分野であり手探りで進めておりましたが、昨年１１月、タイミング良く「ＯＢ活用全国会議」が開催され、本州の西端山口県から参加させていただきました。予想以上に多くの団体から参加され、分科会に分かれての討議は、私どもにとって大変参考になる内容でした。と同時に、「ＯＢ活用全国会議」を企画されたＡＴＡＣのご苦労を思うと共に、豊富な実績をあげられているＡＴＡＣの力に感銘を受けました。

シニアの活用は、自身の生きがい創出はもとより、地域経済発展のためにも極めて重要な課題です。「ＯＢ活用全国会議」が今後も継続して開催されることを心から願っております。

ATAC事務局　ATACニュースに関するご意見、今後のご要望をどしどしATAC事務局までご連絡ください。
〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-4　財団法人 大阪科学技術センター　技術・情報振興部
TEL 06-6443-5323　FAX 06-6443-5319　e-mail:atac@ostec.or.jp　URL: http://www.atac.ne.jp